

講義概要

SYLLABUS

令和7年度

1年生

歯科衛生学科

神戸リハビリテーション衛生専門学校

KOBE COLLEGE OF REHABILITATION AND HEALTH

科目名 生物学	
講 師	高木 京子 大阪大学医学部保健学科（当時3年生）を卒業後、臨床検査技師として大学病院で10年、教師として高校・中学に14年、また臨床検査技師として養毛剤の製造販売会社に17年勤務しました。この経験をもとに解り易く生物学を講義します。
学年・期 1年生前期、2単位、30時間（講義）	
講義目標	地球上には小さいものから、原子、分子、タンパク質や脂質、ウイルス、細菌、細菌は核と細胞小器官を持つ1個の細胞で、ここからが自ら増えることのできる生物です。そして細胞→組織→器官へと進化し、さまざまな植物、動物が存在します。ヒトは極度に発達した細胞の固まりと言えます。生物学は、皆さんがこれから勉強するヒトに関する多くの学問の基礎となります。
授業計画	内容
第1回	I 編 生命の誕生と変遷①
第2回	I 編 生命の誕生と変遷②
第3回	II 編 組織と細胞①
第4回	II 編 組織と細胞②
第5回	II 編 組織と細胞③
第6回	II 編 組織と細胞④
第7回	III 編 遺伝と遺伝子①
第8回	III 編 遺伝と遺伝子②
第9回	III 編 遺伝と遺伝子③
第10回	III 編 遺伝と遺伝子④
第11回	IV 編 刺激の受容と反応①
第12回	IV 編 刺激の受容と反応②
第13回	IV 編 内部環境を保つ仕組み①
第14回	IV 編 内部環境を保つ仕組み②
第15回	まとめ
履修上の注意	
成績評価	出席状況、授業態度、定期試験 単位認定者：高木
テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 生物学	
参考図書 その他	

科目名 化学	
講 師	高木 京子 大阪大学医学部保健学科（当時3年生）を卒業後、臨床検査技師として大学病院で10年、教師として高校・中学に14年、また臨床検査技師として養毛剤の製造販売会社に17年勤務しました。この経験をもとに解り易く化学を講義します。
学年・期 1年生前期、2単位、30時間（講義）	
講義目標	ヒトという生命体を勉強している学生にとって、化学はカタイ学問です。原子・分子、化学反応や濃度計算、無機化合物、有機化合物とたくさんのことを学びます。その中で、溶媒に非常に多く水が使われていたり、反応系にH ₂ Oがあつたりすることに気づきます。化学にとっても驚異の液体「水」を知ってほしいと思っています。
授業計画	内容
第1回	第1章 物質とはなんだろう
第2回	第1章 物質とはなんだろう
第3回	第1章 物質とはなんだろう
第4回	第2章 気体について知ろう
第5回	第3章 物質が水に溶けるには
第6回	第3章 物質が水に溶けるには
第7回	第3章 物質が水に溶けるには
第8回	第4章 酸化とは、還元とは
第9回	第5章 化学反応では原子の組み換えが起こっている
第10回	第6章 有機化合物とはなんだろう／無機化合物について
第11回	第7章 ヒトをつくっているものは何だろう
第12回	第7章 ヒトをつくっているものは何だろう
第13回	第7章 ヒトをつくっているものは何だろう
第14回	溶液濃度の表し方と計算
第15回	まとめ
履修上の注意	
成績評価	出席状況、授業態度、定期試験 単位認定者：高木
テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 化学	
参考図書 その他	

科目名 情報処理	
講 師	日並 彩乃 大学の非常勤講師を勤めている。担当科目は、美術史および博物館学、初年次教育である。初年次教育では、文献資料の検索、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法など、大学で学ぶにあたって必要となる基礎的知識や技術を教えている。
学年・期 1年生後期、2単位、30時間（講義・演習）	
講義目標	情報及び情報技術を活用するための知識と技術の習得を通して、情報を適切に取舍選択し、効果的に表現する力とコミュニケーション能力を養う。
授業計画	内容
第1回	コンピュータの基礎知識と情報リテラシー
第2回	Word：文字入力と文書作成・挿入・保存・印刷
第3回	Word：情報の収集とクリティカル・リーディング
第4回	Word：論理的思考力とは～感想と考察のちがい～
第5回	Word：論理的な文章の書き方
第6回	Word：伝わりやすい文章を作成するためのポイント
第7回	Word：文献を用いた文書作成の演習課題
第8回	Excel：データーの入力と表作成・保存・印刷
第9回	Excel：計算式と関数からデータの加工と統計まで
第10回	Excel：表計算の演習課題
第11回	PowerPoint：スライド作成・保存・印刷
第12回	PowerPoint：スライドデザインとアニメーションの設定
第13回	PowerPoint：スライド作成の演習問題
第14回	発表－授業の集大成－
第15回	発表－授業の集大成－
履修上の注意	
成績評価	出席状況、授業態度ならびに成果・提出物によって評価する。 単位認定者：日並
テキスト	プリントを配布する。
参考図書 その他	

科目名 心理学	
講 師	森本 兼司 神経科・心療内科病院で心理カウンセラー/精神保健福祉士として約30数年の勤務経験があり、その経験を活かして心理学を講義する。
学年・期 1年後期、2単位、30時間（講義）	
講義目標	本講義では、心理学の基礎を学ぶことを通して、自己覚知や他者理解を深めるとともに、人間のこころと身体の関係や行動を解明し、人への援助や心身の病の治療に繋がられる方法を探っていくことを目的とする。
授業計画	内容
第1回	心と知覚 感情労働 対人援助
第2回	対人援助への姿勢 対人認知のメカニズム 対人的位置配慮 人間関係と距離感（心理的距離について） 密接距離でのコミュニケーション
第3回	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 治療へのモチベーション 緊張の低減
第4回	行動変容(1) 健康信念モデル 学習理論 記憶のメカニズム 記憶の湾曲と病理
第5回	行動変容(2) 社会的認知 行動変容ステージとプロセス
第6回	心の健康 ストレスと心の病 ストレスとストレス・コーピング
第7回	心の癖 認知心理学 ・認知機能検査 ・発達検査 ・認知行動療法
第8回	心の成長（発達心理学）(1)
第9回	心の成長（発達心理学）(2)
第10回	コミュニケーション技法と評価 (1) 精神分析療法 行動療法 認知行動療法
第11回	コミュニケーション技法と評価 (2) C.ロジャース 理論／来談者中心療法
第12回	傾聴、 コーチング、 リスク・コミュニケーション
第13回	交流分析 会話分析・表情分析
第14回	行動変容理論 ナッジ理論から
第15回	歯科衛生士の寄り添う“こころ” まとめ ― 期末試験対策
履修上の注意	
成績評価	定期試験により評価する。 単位認定者：森本
テキスト	配布プリント
参考図書	保健医療におけるコミュニケーション・行動科学「第2版」医歯薬出版
その他	心理学的支援法 誠信書房 認知行動療法 医歯薬出版 他

科目名 コミュニケーション能力開発	
講 師	野村 真紀 全日空客室乗務員として国際線・国内線を乗務し、チームコーディネーターとしてマネジメント・新人訓練を担当。その後、企業の接客研修講師として経験を積み、現在は、歯科口腔外科の人財育成部で新人研修や部のマネジメントを担当。キャリアコンサルタントの立場からも「コミュニケーション」の大切さ・楽しさを講義の中で伝えていきます。
学年・期 1年生前期、2単位、30時間（講義）	
講義目標	社会人としての必要な接客マナーを学び、良好な対人関係を構築していくためのコミュニケーションの基本知識を習得する。
授業計画	内 容
第1回	<ガイダンス>授業の進め方・目的・課題・試験に関して。自己紹介①
第2回	<未来マップ>「未来マップ」とは？作製方法の説明。自己紹介②
第3回	<社会人としての基本的なマナー①>「身だしなみ」と「おしゃれ」の違い
第4回	<社会人としての基本的なマナー②>「第一印象」の大切さ
第5回	<社会人としての基本的なマナー③>正しい言葉遣い（敬語の使い方）の基本
第6回	<社会人としての基本的なマナー④>美しい立ち居振る舞いの基本（座り方・立ち方・お辞儀の仕方）
第7回	<コミュニケーションの基本的な知識>「言語コミュニケーション」と「非言語的コミュニケーション」について
第8回	<未来マップの進捗状況の報告>作業を進める中で、工夫している点、悩んだり迷っていることなどを発表し、クラスメートと意見交換・情報共有する
第9回	<自己表現の方法①>「聴く・聞く・訊く・話す」の基本、「傾聴」とは？
第10回	<自己表現の方法②>「オープンクエスチョン」と「クローズドクエスチョン」について
第11回	<自己表現の方法③>複数人（グループ）でのコミュニケーションの取り方を学ぶ
第12回	<人物観察>相手のどの部分、何を観察すれば、相手とその後の良い関係・コミュニケーションが取れることにつながるのかを考える
第13回	<社会人・組織人>求められる「人財」とは？ <医療人としての心得>医療人としての仕事に対する姿勢を学ぶ
第14回	<未来マップのプレゼン①>課題の「未来マップ」の発表を行い、クラスメートからの意見・評価を聞く
第15回	<未来マップのプレゼン②>課題の「未来マップ」の発表を行い、クラスメートからの意見・評価を聞く <15回講義のまとめ・総括>
履修上の注意	
成績評価	定期試験：30%、レポート・課題：20%、平常点：30%、その他（プレゼンなどの自己評価・他者評価）20% 単位認定者：野村
テキスト 配布プリント	
参考図書 その他	医学通信社 「ケーススタディで学ぶ患者接遇 パーフェクトレッスン」（参考文献）

科目名	解剖学	
講 師	尾崎 健太 木村 こずえ 東 忍	岩手医科大学歯学部卒後、奈良県立医科大学にて研修医修了し、大阪歯科大学大学院（口腔外科）修了（歯学博士）。更に日本口腔外科学会認定医取得、民間病院口腔外科勤務を経て、大阪市平野区にて開業し現在にいたる。臨床においては、口腔外科を診療のメインとし、行政の健診や学校歯科医として地域医療に貢献している。これまでの成果、経験を活かし解剖学の講義を行う。（尾崎）
学年・期	1年生前期、2単位、30時間（講義）	

講義目標 歯科衛生士として知っておかねばならない人体の基本的な構造や働きおよび発生について学び、基本的な医学用語を理解することを目的としている。

授業計画	内容
第1回	頭蓋骨 頭蓋を構成する骨の種類と形態および骨の部位の名称を理解する。
第2回	骨格系の形態と構造 体幹・体肢の骨について学習する。
第3回	頭頸部の筋 頭頸部の筋の名称、構造、機能を理解する。
第4回	体幹・体肢の筋 骨格筋の名称、構造、機能を理解する。
第5回	中枢神経 脳と脊髄の構造とはたらきを理解する。
第6回	脳神経 脳神経12対の概要を理解し、中枢神経との関連について学習する。
第7回	脊髄神経・自律神経 脊髄神経と自律神経の概要を理解し、そのはたらきについて理解する。
第8回	感覚器 感覚器全般の構造とはたらきについて理解する。
第9回	消化器系（1） 消化器官全般について学習し、特に口腔、咽頭の構造と機能を理解する。
第10回	消化器系（2） 胃・小腸・大腸および膵臓、肝臓の構造と機能を理解する。
第11回	呼吸器系 気管、気管支、肺など呼吸に関わる呼吸器系全般について学習する。 内分泌系 内分泌器官について学習し、恒常性の維持との関わりについて理解する。
第12回	泌尿器系 尿形成とその排出に関わる泌尿器系全般について学習する。 生殖系 生殖器の構造について学習し、精子形成・卵子形成のメカニズムを理解する。
第13回	体温 体熱の産生、放散、調節、変動について理解する。 まとめ 試験対策
第14回	骨模型実習①
第15回	骨模型実習②

履修上の注意 誤嚥性肺炎やAEDの使用など、医療従事者として全身についての知識も国家試験に出題されていますので、よく理解しましょう

成績評価 小テスト、定期試験、出席点、授業態度を総合して判定します。 単位認定者：尾崎

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能Ⅰ 解剖学・組織発生学・生理学

参考図書
その他

科目名 組織・発生学	
講 師	大庭 伸介 2001年東北大学歯学部卒業後、東京大学医学部附属病院顎口腔外科に勤務。2006年東京大学大学院医学系研究科修了。東京大学、長崎大学等を経て、2022年より大阪大学大学院歯学研究科。歯科口腔外科の実務経験と骨・歯の発生学に関する研究経験を活かして、顔面・口腔・歯の組織発生学、歯の解剖学について講義する。
学年・期 1年生前期、2単位、30時間（講義）	
講義目標	顔面・口腔・歯の発生過程と微細構造を学び、顔面・口腔・歯の「正常な成り立ち」（発生学）と「正常な構造」（組織学）を理解する。また歯牙解剖学ではヒトの歯の形態的特徴を理解する。
授業計画	内容
第1回	組織発生学総論①ー細胞と組織 細胞、上皮組織と支持組織
第2回	組織発生学総論②ー発生 染色体と減数分裂、精子と卵子の発生、受精と着床、胚葉の形成、胎児の成長と発育
第3回	顔面と口腔の発生 鰓弓の形成、突起の形成と癒合、口蓋の形成、舌の形成、腺の形成
第4回	歯と歯周組織の発生 先行歯の発生、代生歯および加生歯の発生、歯の萌出・脱落・交換
第5回	発生学のまとめ
第6回	歯の構造① エナメル質
第7回	歯の構造② 象牙質・歯髄
第8回	歯周組織の構造 セメント質・歯根膜・歯槽骨・歯肉
第9回	口腔組織学（歯・歯周組織の構造）のまとめ
第10回	歯牙解剖① 総論
第11回	歯牙解剖② 切歯（犬歯）の形態的特徴・スケッチ
第12回	歯牙解剖③ 小臼歯の形態的特徴・スケッチ
第13回	歯牙解剖④ 大臼歯の形態的特徴・スケッチ
第14回	歯牙解剖⑤ 乳歯の形態的特徴
第15回	歯牙解剖⑥ 歯の異常、歯列と咬合、歯牙解剖のまとめ
履修上の注意	
成績評価	出席状況、授業態度ならびに定期試験によって評価する。 単位認定者：大庭
テキスト	医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能Ⅰ 解剖学・組織発生学・生理学 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学
参考図書 その他	

科目名 生理学	
講 師 平川 俊秀	九州歯科大学歯学部歯学科を卒業後、3つの歯科医院に勤務する傍ら、歯科医師国家試験対策の家庭教師としても従事していた経験を持つ。13年間の勤務医を経て、開業。現在は大阪府下に3つの歯科クリニックを抱え、医療法人を経営する。
学年・期 1年生前期、2単位、30時間（講義）	
講義目標	歯科衛生士の業務遂行上必要な知識を身につけるために、細胞器官系の「基本的な機能と調節機構」を修得する。
授業計画	内容
第1回	ガイダンス 細胞と組織
第2回	筋と運動 筋肉の興奮と収縮の仕組み、筋肉の種類と収縮の種類が学習できる。
第3回	消化・吸収（1） 消化器の構造を理解する。
第4回	消化・吸収（2）、感覚 消化管運動の仕組み、消化液の種類と機能および消化液分泌調節が学習できる。
第5回	血液・循環（1） 血液成分の機能と調節の仕組みが学習できる。
第6回	血液・循環（2） 心臓、動脈系、静脈系、リンパ系
第7回	血液・循環（3）、前半小テスト
第8回	神経（1） 細胞膜と細胞内諸器官の機能が学習できる。神経の興奮と伝導の仕組みが学習できる
第9回	神経（2） 神経系の機能が学習できる。
第10回	呼吸 ガス交換の仕組み、呼吸を調節する仕組みが学習できる。
第11回	腎機能と排泄 排泄の種類、尿の生成と組成、尿量調節の仕組みが学習できる。
第12回	内分泌 各種ホルモンの作用と分泌調節の仕組みが学習できる。
第13回	生殖 男女の生殖器や性周期について学習できる。
第14回	体温 体温と体温変動、体温調節の仕組みが学習できる。
第15回	後半小テスト、定期試験対策
履修上の注意	
成績評価	適宜小テストの実施（加点对象）、定期試験 単位認定者：平川
テキスト	医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能Ⅰ 解剖学・組織発生学・生理学
参考図書 その他	

科目名 栄養学	
講 師	橋本 通子 1987年より管理栄養士として医療機関で栄養指導や企業や市民等に向けて栄養改善事業を行っている。2012年度より歯科衛生士養成校へ「栄養学」と「栄養指導論」の授業を行っており、2022年度より大阪府歯科医師会の主催する8020推進アンバサダー事業の推進委員として活動をおこなっている。
学年・期 1年生後期、2単位、30時間（講義）	
講義目標 我が国は、終戦後から高度成長期を経て超高齢社会の現在まで食生活が大きく変化し、現在、生活習慣病と低栄養の二重負荷等の栄養問題が起こっている。健康の3本柱の1つである栄養の基礎を学び、栄養の課題と健康維持増進を理解し歯科衛生に栄養の知識を身につける。	
授業計画	内容
第1回	第1章 栄養学と歯科衛生士 栄養の概念（p1～）
第2回	第2章 栄養素の種類と働き 糖質・食物繊維・脂質・たんぱく質（p13～）
第3回	ビタミン（p28～）
第4回	ミネラル・水（p34～）
第5回	第3章 栄養素の消化・吸収（p43～）
第6回	栄養素別の消化・吸収（p52～）
第7回	第4章 健康と栄養 日本人の食事摂取基準（p61～）
第8回	体内のエネルギー（消費エネルギー）
第9回	第5章 食事と食品 食事の基本等（p73～）
第10回	食事バランスガイド・食品群（p75～）
第11回	食品に含まれる栄養素（p80～）
第12回	食品の機能・食品の調理（p86～p94～）
第13回	特別用途食品と保健機能食品（p88～）
第14回	演習：特別用途食品・保健機能食品を調べてみよう
第15回	栄養学のまとめ
履修上の注意	
成績評価	小テストの評価：20点 試験問題：80点 単位認定者：橋本
テキスト	医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能3 栄養学 新食品成分表F00DS（2025年度版）
参考図書 その他	

科目名 口腔解剖学	
講 師	角野 公紀 講師は口腔解剖学の分野で5年以上の研究歴と10年以上の教育歴、歯科臨床において10年以上の実務経験を有する。歯科医療に必ず必要となる基礎知識を実際の臨床と関連づけて講義する。
学年・期 1年生前期. 2単位. 30時間（講義）	

講義目標 口腔周囲の骨、筋、脈管、神経の解剖について理解する。

授業計画	内容
第1回	口腔解剖学総論 1
第2回	口腔解剖学総論 2
第3回	口腔解剖学各論 1（骨）
第4回	口腔解剖学各論 2（骨）
第5回	口腔解剖学各論 3（骨）
第6回	口腔解剖学各論 4（筋）
第7回	口腔解剖学各論 5（筋）
第8回	口腔解剖学各論 6（筋）
第9回	口腔解剖学各論 7（脈管）
第10回	口腔解剖学各論 8（脈管）
第11回	口腔解剖学各論 9（脈管）
第12回	口腔解剖学各論 10（神経）
第13回	口腔解剖学各論 11（神経）
第14回	口腔解剖学各論 12（神経）
第15回	総復習

履修上の注意

成績評価 小テストおよび定期試験 単位認定者：角野

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学

参考図書
その他

科目名 生化学・口腔生化学	
講 師	西野 武四 歯科医師。大阪歯科大学卒業後、同大学に勤務しその後開業。豊富な臨床経験を元に授業を行う。
学年・期 1年生前期、2単位、30時間（講義）	
講義目標	生命活動を最も基本的なレベルで支えているのが物質とそれらの間の反応であり、全身と口腔における物質の代謝と機能について習得する。
授業計画	内容
第1回	生体の構成要素（細胞の役割、生体の構成成分）
第2回	糖質、脂質の構造と種類
第3回	タンパク質の構造と役割、ビタミン、ミネラルの構造と種類
第4回	生体における化学反応（消化と吸収）
第5回	糖質と脂質の代謝（1）
第6回	糖質と脂質の代謝（2）
第7回	タンパク質とアミノ酸の代謝
第8回	生体における恒常性の維持
第9回	生化学総復習
第10回	歯と歯周組織の生化学
第11回	歯の構造と石灰化
第12回	唾液の生化学
第13回	プラークの生化学（1）
第14回	プラークの生化学（2）
第15回	口腔生化学 総復習
履修上の注意 理解度確認の為、授業内に小テストを実施する。生化学、口腔生化学を合わせて成績評価する。	
成績評価	授業態度、小テストならびに定期試験によって評価する。 単位認定者：西野
テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学	
参考図書 その他	

科目名 口腔生理学	
講 師	平川 俊秀 九州歯科大学歯学部歯学科を卒業後、3つの歯科医院に勤務する傍ら、歯科医師国家試験対策の家庭教師としても従事していた経験を持つ。13年間の勤務医を経て、開業。 木村 こずえ 現在は大阪府下に3つの歯科クリニックを抱え、医療法人を経営する。（平川） 東 忍
学年・期 1年生後期、2単位、30時間（講義）	
講義目標 口腔について口腔生理学の知識を習得できる。	
授業計画	内容
第1回	歯と口腔の感覚
第2回	味覚
第3回	嗅覚
第4回	咬合と咀嚼・吸啜① （下顎位・下顎運動・顎反射）
第5回	咬合と咀嚼・吸啜② （摂食行動・咀嚼・吸啜）
第6回	唾液
第7回	口腔の機能を測定する方法、小テスト
第8回	口腔生理実習
第9回	口腔生理実習
第10回	嚥下
第11回	口腔生理実習
第12回	口腔生理実習
第13回	嘔吐
第14回	発声・発語
第15回	小テスト、定期試験対策
履修上の注意 実習時、レポート課題あり。	
成績評価	適宜小テストの実施（加点対象） 単位試験 単位認定者：平川
テキスト	医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学
参考図書 その他	

科目名 病理学・口腔病理学	
講 師	鈴木 真世 歯科医師。大阪歯科大学歯学部卒業後、同大学大学院口腔外科学専攻、修了。大阪歯科大学附属病院勤務を経て、その他病院歯科口腔外科でも勤務経験を有する。豊富な臨床経験から講義を展開する。
学年・期 1年生後期、2単位、30時間（講義）	

講義目標 病理学は疾病の本態を考えていく学問であり、疾患概念と病態を説明するうえで必要な用語の定義を十分に理解し、病変の分類と代表的な疾病の肉眼的・組織学的な特徴を知る。

授業計画	内容
第1回	病因論（全身の病理と口腔病理）・遺伝性疾患と奇形 病理学総論での6大病変の分類を知り、病因として内因と外因があることを理解する。
第2回	循環障害 血管・リンパ管で構成される全身循環系と血液成分・血漿成分の役割を知り、それらの異常に伴う病変を理解する。
第3回	退行性病変・進行性病変 刺激や障害に対する細胞の反応について理解する。
第4回	炎症 炎症の成り立ちと組織反応に寄与する細胞・因子を知り、局所の防御反応の意味を理解する。
第5回	腫瘍 生理的・病的な可逆性増殖と腫瘍（新生物）の特徴である自律的増殖の違いを理解し、腫瘍の名称と分類、特徴を理解する。
第6回	歯の形成異常と歯の損傷 歯の形成過程で生じる異常の発症機序を考察する。また、様々な原因により生じる外傷についても考察する。
第7回	う蝕の病理 ヒトのう蝕罹患の変遷、病態と診断法を理解し、初期う蝕の特徴と再石灰化による脱灰病巣の修復を考察する。
第8回	象牙質、歯髄複合体の病変 歯髄に生じる炎症や変化および象牙質に生じる変化について理解する。
第9回	辺縁性歯周炎と根尖性歯周炎 歯周組織の構成要素を復習し、硬組織と軟組織の接合部に発症する病態を理解する。
第10回	口腔粘膜の病変 口腔粘膜の組織構造と上皮細胞層について復習し、口腔粘膜に現れる臨床症状と病理組織変化を結び付けて理解する。
第11回	口腔領域の嚢胞と良性腫瘍 口腔領域に発症する嚢胞と良性腫瘍の分類と病態を理解する。
第12回	口腔領域の悪性腫瘍 口腔領域に発症する悪性腫瘍の分類と病態を理解する。
第13回	顎骨の病変 顎骨に生じる病変について理解する。
第14回	口腔領域に生じる形成異常・口腔領域の加齢変化 口腔領域に生じる奇形、加齢変化について理解する。
第15回	唾液腺の病変・まとめ（定期試験対策） 唾液腺の変性と修復・再生、腫瘍発生について理解する。

履修上の注意 配布資料を毎回授業時に持参する事。

成績評価 定期試験 毎回授業初めに小テストを実施（加点対象） 単位認定者：鈴木

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進I 病理学・口腔病理学

参考図書
その他

科目名 微生物学・口腔微生物学

講 師 柏村 信一郎

大阪大学医学部大学院博士課程(医学博士)終了。専門は免疫学、分子生物学。
当該教員は阪大でHLA分子の免疫学的意義の解析、抗体産生を誘導するIL-6のクローニング、B細胞の抗原認識シグナル伝達分子Igαのクローニングを行った。その後、日米交換留学研究員としてWashington州立大医学部でRT-PCRによるAIDSウイルスの検出方を開発した。1995年からは兵庫医科大学にて新たなサイトカインIL-18遺伝子をクローニングし、先端医学研究所を設立、自然免疫システムの解明、新興感染症に対応するDANワクチン作成などを行った。

学年・期 1年生前期、2単位、30時間（講義）

講義目標

本講義では感染症を誘発するウイルス、細菌、真菌等の構造の差異を説明する。また、私たちの体内や皮膚には常在菌の存在することを説明し、体調や免疫力の低下により日和見感染が誘発される機序を説明する。更に、当該教員がWHOのStop-TB Projectで厚生省班会議に招集され多剤耐性結核菌に対するワクチンを作成した経験を紹介し、グローバルな感染症の広がりにどのような対処がされるのが、具体的事例を説明し、新しい感染症の出現の原因とそれに対応する現代の医療システムについて理解を深める事を講義目標とする。

授業計画	内容
第1回	疾病と微生物：感染症の原因となる微生物の種類と治療法を概説する。
第2回	微生物の病原性（1）細菌、マイコプラズマ等の病原微生物を理解する。
第3回	微生物の病原性（2）ウイルス、真菌等の病原微生物を理解する。
第4回	宿主防衛と免疫（1）非特異的防衛機構と自然免疫のシステムを理解する。
第5回	宿主防衛と免疫（2）獲得免疫機構と液性免疫と細胞性免疫のシステムを理解する。
第6回	宿主防衛と免疫（3）過剰な免疫応答がアレルギーを誘導する機序について理解する。
第7回	口腔微生物学：口腔細菌の定着・増殖による口内環境について理解する。
第8回	口腔感染症（1）口腔感染症の症状について理解する。
第9回	口腔感染症（2）口腔感染症の症状について理解する。
第10回	口腔感染症（3）口腔感染症の症状について理解する。
第11回	化学療法（1）化学療法薬について薬の作用、副作用等を理解する。
第12回	化学療法（2）化学療法薬について薬の作用、副作用等を理解する。
第13回	化学療法（3）化学療法薬について薬の作用、副作用等を理解する。
第14回	院内感染対策：多剤耐性菌の発生機序を理解する。
第15回	全体の講義について疑問に思った点や興味のあった点について議論する。

履修上の注意 講義の前日までに教科書の指定範囲もしくは配付資料で予習をしておく事が望ましい

成績評価 定期試験を行う（60点以下の場合は再試験を行う）。 単位認定者：柏村

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学 第2版

参考図書
その他

科目名 薬理学・歯科薬理学	
講 師	吉野 伸 大学および専門学校での薬理学教育の経験を有する。さらに薬物治療に関する研究成果を活かし、歯科医療における薬理学の重要性について講義する。
学年・期 1年生後期、2単位、30時間（講義）	
講義目標	薬物の薬理作用、作用機序、副作用および体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）などについて学び、歯科医療における薬物療法を理解する。
授業計画	内容
第1回	薬物とは、薬理学とは
第2回	薬理作用の機序、薬物の体内動態
第3回	薬物の適用方法の種類と特徴
第4回	薬物の作用に影響を与える要因
第5回	薬物の副作用、有害作用
第6回	医薬品を適用する際の注意、薬物の取扱い
第7回	薬物と法律
第8回	末梢神経系に作用する薬物
第9回	中枢神経系に作用する薬物
第10回	血液に作用する薬物
第11回	炎症・アレルギーと薬
第12回	痛みと薬、局所麻酔薬
第13回	抗感染症薬
第14回	消毒に使用する薬物
第15回	歯内療法薬、歯周疾患治療薬
履修上の注意 各講義後の復習を怠らないこと。	
成績評価	定期試験 単位認定者：吉野
テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 第2版	
参考図書	その他

科目名 口腔衛生学	
講 師	関根 伸一 病院歯科予防歯科、障害者歯科治療部、医療情報部で歯科医師として勤務経験を有しており、歯科衛生士養成機関においても教育経験がある。さらに、口腔衛生学会認定医の経験を活かし口腔衛生学の講義をする。
学年・期 1年生後期、2単位、30時間（講義）	

講義目標 歯と口腔の健康および予防に関する知識を習得することを目的とする。

授業計画	内容
第1回	「歯と口腔の健康と予防」の定義、健康保持増進の手段について学ぶ。 「セルフケア」「プロフェッショナルケア」「コミュニティケア」について理解する。
第2回	歯・歯周組織・唾液腺の構造と働きについて学ぶ。 「エナメル質」「象牙質」「セメント質」「唾液の機能」について理解する。
第3回	歯・口腔の形成および発育・発達について学ぶ。 「歯の発生」「歯の石灰化」「歯の萌出」「歯の形成異常」について理解する。
第4回	歯と口腔の付着物・沈着物について学ぶ。 「ペリクル」「プラーク」「歯石」「舌苔」について理解する。
第5回	口腔清掃について学ぶ。 「口腔清掃の意義」「物理的清掃法」「化学的清掃法」「歯磨剤の薬用成分」について理解する。
第6回	う蝕の予防について学ぶ。 「DMFT指数」「Keyesによるう蝕の発生要因」「不溶性グルカン」について理解する。
第7回	う蝕の予防について学ぶ。 「う蝕活動性試験」「シーラント」「食事指導」について理解する。
第8回	フッ素について学ぶ。 「フッ素の分布」「フッ素の代謝」「急性中毒発見時の救急処置」「歯のフッ素症」について理解する。
第9回	フッ素について学ぶ。 「全身的应用」「局所的应用」「水道水フッリデーション」「歯面塗布」「洗口」について理解する。
第10回	歯周疾患の予防について学ぶ。 「病因」「Red Complex」について理解する。
第11回	歯周疾患の予防について学ぶ。 「サポータティブケア」「禁煙指導」「エビデンスレベル」について理解する。
第12回	その他の口腔疾患の予防 「口内炎」「口腔癌」「不正咬合」について理解する。
第13回	その他の口腔疾患の予防 「顎関節症」「口臭症」「ドライマウス」について理解する。
第14回	ライフステージごとの口腔保健管理を学ぶ。 「ライフステージごとのリスク」「母乳とう蝕」「口腔機能」について理解する。
第15回	ライフステージごとの口腔保健管理を学ぶ。 「口腔機能発達不全症」「口腔機能低下症」「口腔機能訓練」について理解する。

履修上の注意

成績評価 授業への取組や姿勢 20% 定期試験 80% 単位認定者：関根

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みI 保健生態学

参考図書
その他

科目名 歯科衛生学総論・医療倫理	
講 師	久保田 千尋 歯科衛生士として歯科医院で働く。また歯科衛生士教員として、歯科衛生士（教 溝部 潤子 育）認定（全国歯科衛生士教育協議会）を取得、主要3科目を教授してきた。臨床経 石飛 國子 験、教育現場経験を生かし講義を展開する。（久保田）
学年・期 1年生前期、2単位、30時間（講義）	
講義目標	歯科衛生士の成り立ちを知り、歯科衛生士として自立して、歯科衛生士業務（三大業務；歯科予防 処置・歯科診療補助・歯科保健指導）を遂行するために、歯科保健医療・歯科衛生学の概念を会得 する。また、その業務の内容、倫理（医療倫理）、チーム医療、保健・医療・福祉の連携（多職種 連携）を学び理解する。
授業計画	内容
第1回	歯科診療の概略 歯科衛生士の就業状況
第2回	歯科衛生学とは
第3回	歯科衛生士法と歯科衛生業務①
第4回	歯科衛生士法と歯科衛生業務②
第5回	歯科衛生士と医療倫理①
第6回	歯科衛生士と医療倫理②
第7回	歯科衛生士の歴史① 歯科衛生の誕生と経緯
第8回	歯科衛生士の歴史② 歯科衛生の背景と歯科衛生士業務の背景
第9回	歯科衛生士過程とは
第10回	歯科衛生過程の枠組み
第11回	歯科衛生士と医療倫理③
第12回	歯科衛生士と医療倫理④
第13回	多職種連携・チーム医療①
第14回	多職種連携・チーム医療②
第15回	海外における歯科衛生士/歯科衛生士の組織 / 総括
履修上の注意 基本的に教科書に沿って授業をすすめる。	
成績評価	定期試験・授業課題および小テスト等 単位認定者：久保田
テキスト	医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論
参考図書 その他	医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科医療倫理学

科目名 歯科保存学		
講 師	峯田 大輔	西宮市内の歯科医院で法人の理事長、院長を担っている。歯科医師として、ペリオ、エンド、補綴を研修会や実践で学び、一般歯科ならではの包括的観点から、日々治療を行っている。豊富な臨床経験から知識だけでなく多角的な視点からみた患者さんへのアプローチをモットーとしている。以上のことから学生への授業を展開し講義する。
学年・期 1年生後期、2単位、30時間（講義）		
講義目標	『歯科保存学』は【保存修復学】と【歯内治療学】に大別される。 【保存修復学】では、う蝕を中心とした硬組織疾患の治療法、各修復方法についての前処置、特徴、使用する器具・器材について習得する。 【歯内治療学】では、う蝕の継発症といわれる歯髄疾患と根尖性歯周組織疾患の概要と治療法、使用器具・器材、薬剤の用途とその注意点について習得する。	
授業計画	内 容	
第1回	歯科保存学の目的 歯の硬組織、歯髄および根尖性歯周組織疾患の概要を復習し、歯の保存方法について理解する。	
第2回	切削用器械・器具 硬組織切削のための器械・器具の種類、用途、使用方法について理解する。	
第3回	う蝕の除去と窩洞形成 う蝕の除去方法ならびに窩洞の分類とその条件、各部の名称、形成方法について理解する。	
第4回	治療の前準備 防湿法、歯間分離法、歯肉排除法、隔壁法の目的、方法、使用器具・器材について理解する。	
第5回	コンポジットレジン修復と歯面処理 コンポジットレジン修復の特徴、組成、修復方法、診療補助について理解する。	
第6回	ガラスアイオノマーセメント修復 ガラスアイオノマーセメント修復の特徴、組成、術式、診療補助について理解する	
第7回	インレー修復と合着用セメント	
第8回	ラミネートベニア修復歯の漂白法 歯のホワイトニング	
第9回	歯髄保護法（歯髄鎮痛消炎療法、覆髄法、裏層法）象牙質知覚過敏症	
第10回	歯髄除去療法（断髄法、抜髄法）	
第11回	根管治療（根管長測定法、拡大形成法）	
第12回	感染根管治療、根管内細菌検査、仮封法	
第13回	根管充填法	
第14回	外科的歯内療法 歯内治療の偶発事故 歯内療法における安全対策	
第15回	歯内療法における歯科衛生士の役割 定期試験対策	
履修上の注意		
成績評価	定期試験	単位認定者：峯田
テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学		
参考図書 その他		

科目名 歯周病学	
講 師	角野 公紀 講師は歯科衛生士養成機関において10年以上の教育歴、歯科臨床において10年以上の実務経験を有する。歯科衛生士が業務を行う上で対象とする主要な疾患について、実際の臨床と関連づけて講義する。
学年・期 1年生後期、2単位、30時間（講義）	

講義目標 歯周疾患の原因、評価、治療方法について理解する。

授業計画	内容
第1回	歯周病学総論 1（正常な歯周組織）
第2回	歯周病学総論 2（歯周病の分類）
第3回	歯周病学総論 3（歯周病の分類）
第4回	歯周病学総論 4（歯周病の原因と全身疾患）
第5回	歯周病学各論 1（歯周治療の流れ）
第6回	歯周病学各論 2（歯周病の検査）
第7回	歯周病学各論 3（歯周病の検査）
第8回	歯周病学各論 4（歯周基本治療）
第9回	歯周病学各論 5（歯周外科治療）
第10回	歯周病学各論 6（歯周外科治療）
第11回	歯周病学各論 7（分岐部病変、歯周-歯内病変）
第12回	歯周病学各論 8（メインテナンス）
第13回	歯周病学各論 9（インプラント）
第14回	歯周病学各論 10（インプラント）
第15回	歯周病学各論 11（インプラント周囲炎）

履修上の注意

成績評価 小テストおよび期末試験 単位認定者：角野

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯周病学

参考図書
その他

科目名 歯科予防処置論Ⅰ		
講 師	飯尾 尚子 東 忍	歯科衛生士として歯科医院で働く。また歯科衛生士教員として経験もある。臨床経験、教育現場経験を生かし講義を展開する。（飯尾） 歯科衛生士として歯科医院、訪問歯科にて働く。これまでの経験を活かし講義・演習を行う。（東）
学年・期 1年生前期、2単位、60時間（講義・演習）		
講義目標	「歯科予防処置」を理解するために、歯科衛生士として必要な基礎知識を学び、予防処置を行うために基本的な技術を習得する。 また、歯科衛生士としての心構え（身だしなみ・言葉遣い・文章作成）、人間形成の期間でもある。	
授業計画	内 容	
第1回	歯科予防処置概要、歯科衛生士としての心構え	
第2回	口腔の基礎知識（健康な歯周組織の理解）	
第3回	歯周組織の基礎知識（口腔内の付着物・沈着物／プラーク・歯石の成分）	
第4回	歯周組織の基礎知識（歯周病の分類・原因／歯肉炎と歯周炎の臨床的特徴）	
第5回	歯・歯周組織の診査（診査・診査用器具について①）	
第6回	歯・歯周組織の診査（診査・診査用器具について②）	
第7回	歯・歯周組織の診査（診査・診査用器具について③）	
第8回	ファントムの操作方法・ポジショニングの基礎・身だしなみについて	
第9回	手用スケーラーについて/シクルタイプスケーラーについて	
第10回	シクルタイプスケーラーの操作方法①（机上）	
第11回	シクルタイプスケーラーの操作方法②（机上）	
第12回	シクルタイプスケーラーの操作方法③（机上）	
第13回	シクルタイプスケーラーの操作方法④（机上）	
第14回	シクルタイプスケーラーの操作方法⑤（机上）	
第15回	まとめ	
履修上の注意	レポート及び課題の提出期日は厳守とする。 体調管理を整え授業に取り組んでください。 実技技術をに身につけるため自主練習を重ねてください。積極的な取り組みを期待します。	
成績評価	課題レポート、実技試験、定期試験により総合的に判断する。 単位認定者：飯尾・東	
テキスト	医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版	
参考図書 その他	医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯周病学	1回…90分×2(180分)とする

科目名 歯科予防処置論Ⅱ		
講 師	久保田 千尋 東 忍 溝部 潤子 (東)	歯科衛生士として歯科医院で働く。また歯科衛生士教員として経験もある。臨床経験、教育現場経験を生かし講義を展開する。(飯尾) 歯科衛生士として歯科医院、訪問歯科にて働く。これまでの経験を活かし講義・演習を行う。
学年・期 1年生後期、2単位、60時間(講義・演習)		
講義目標	「歯科予防処置」を理解するために、歯科衛生士として必要な基礎知識を学び、予防処置を行うために基本的な技術を習得する。 また、歯科衛生士としての心構え(身だしなみ・言葉遣い・文章作成)、人間形成の期間でもある。	
授業計画	内 容	
第1回	シックルタイプスケーラーの操作方法⑤(机上 総括)	
第2回	シックルタイプスケーラーの操作方法⑥(机上 総括)	
第3回	シャープニングについて(講義・シックルスケーラーシャープニング)	
第4回	歯面研磨について① 講義・ファントム実習	
第5回	歯面研磨について② ファントム実習	
第6回	PTC・PMTCについて	
第7回	相互実習注意事項について	
第8回	相互実習① (シックルタイプスケーラー操作)	
第9回	相互実習① (シックルタイプスケーラー操作) 相互実習② (シックルタイプスケーラー・歯面研磨操作)	
第10回	相互実習② (シックルタイプスケーラー・歯面研磨操作)	
第11回	歯面清掃器について①	
第12回	歯面清掃器について②・まとめ	
第13回	相互実習③ (シックルタイプスケーラー・歯面研磨操作)	
第14回	相互実習④ (シックルタイプスケーラー・歯面研磨操作)	
第15回	相互実習⑤ (PMTC)	
履修上の注意	レポート及び課題の提出期日は厳守とする。 体調管理を整え授業に取り組んでください。 実技技術を身に付けるため自主練習を重ねてください。積極的な取り組みを期待します。	
成績評価	課題レポート、実技試験、定期試験により総合的に判断する。 単位認定者：久保田・東	
テキスト	医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版	
参考図書 その他	医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯周病学 1回…90分×2(180分)とする	

科目名 う蝕予防処置論Ⅰ	
講 師	久保田 千尋 木村 こずえ 歯科衛生士として歯科医院で働く。また歯科衛生士教員として、歯科衛生士（教育）認定（全国歯科衛生士教育協議会）を取得、主要3科目を教授してきた。臨床経験、教育現場経験を生かし講義を展開する。（久保田） 歯科衛生士として臨床に従事。歯科医院で働き、新人教育にも携わる。これまでの経験を活かし講義・演習を行う。（木村）
学年・期 1年生後期、Ⅰ単位、30時間（講義・演習）	
講義目標	う蝕予防処置は、う蝕罹患への感受性、抵抗性を知り、歯質を強化するなどう蝕予防を行うことを目的とし直接的施術により歯科衛生士が専門的施術を身につける。
授業計画	内容
第1回	齲蝕予防処置法とは（う蝕予防）
第2回	齲蝕の知識（う蝕とは・メカニズム他）
第3回	フッ化物の応用について（講義）
第4回	フッ化物の応用について（演習）
第5回	齲蝕活動性試験について（講義）
第6回	齲蝕活動性試験について（演習）
第7回	フッ化物応用による齲蝕予防について（ライフステージに応じた予防）
第8回	
第9回	齲蝕予防処置法のアウトライン①（フッ化ジアンミン銀 講義）
第10回	齲蝕予防処置法のアウトライン①（フッ化ジアンミン銀 基礎実習）
第11回	齲蝕予防処置法のアウトライン②（小窩裂溝填塞 講義）
第12回	齲蝕予防処置法のアウトライン②（小窩裂溝填塞 基礎実習）
第13回	齲蝕予防処置法のアウトライン③（小窩裂溝填塞 相互実習）
第14回	
第15回	まとめ
履修上の注意 レポート及び課題の提出期日は厳守とする。 体調管理を整え授業に取り組んでください。 積極	
成績評価 実技・課題レポート、定期試験により総合的に判断する。 単位認定者：久保田・木村	
テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版	
参考図書 その他	医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みⅠ 保健生態学

科目名 歯科保健指導論Ⅰ	
講 師	久保田 千尋 森野 智子
歯科衛生士として臨床経験、歯科医院で働く。歯科衛生士教員として、歯科衛生士（教育）認定（全国歯科衛生士教育協議会）を取得、主要3科目を教授してきた。臨床経験、教育現場経験を生かし講義を展開する。（久保田） 歯科診療所、病院歯科口腔外科、介護保険施設等で歯科衛生士として16年間の勤務経験を有する。また、歯科衛生士養成機関で15年間の教育経験がある。これらの臨床や教育現場での経験を活かし歯科保健指導論を指導する。（森野）	
学年・期 1年生前期、2単位、30時間（講義）	
講義目標	歯・口腔は生涯にわたりコミュニケーションを楽しみ、おいしく、楽しく食事をするために重要な役割がある。 健康支援として人々の健康維持・増進、QOLの向上を考え、口腔の健康の意味や必要性について正しい知識や技術を学ぶ。具体的な歯科保健行動の向上に専門的な指導（支援）ができることを目指すための基礎を習得する。 セルフケア能力を高めるために必要な知識・技術・態度を理解し習得する。
授業計画	内 容
第1回	ガイダンス / 歯科保健指導の概要 口腔の基礎知識
第2回	口腔内の観察 / う蝕・歯周病の基礎知識
第3回	保健行動支援のための基礎知識
第4回	口腔衛生管理に関わる指導①（歯ブラシの基礎知識・ブラッシング・歯ブラシ）
第5回	口腔衛生管理に関わる指導②（補助的清掃用具）
第6回	口腔衛生管理に関わる指導③（歯磨剤・洗口剤・保湿剤他）
第7回	口腔衛生管理に関わる指導③（毛先を使用したブラッシング方法）
第8回	口腔衛生管理に関わる指導④（脇腹を使ったブラッシング方法）
第9回	口腔衛生管理に関わる指導⑤（補助的清掃用具の使用法 ファントム）
第10回	口腔衛生管理に関わる指導⑥（各種ブラッシング操作法 実技確認 ファントム）
第11回	口腔衛生管理に関わる指導⑦（総括）
第12回	口腔清掃指数について①（評価法を知る PCR）
第13回	口腔清掃法①（相互実習 術者磨き・フロス）
第14回	
第15回	まとめ
履修上の注意	授業後レポート及び課題の提出期日は厳守とする。授業資料はファイリングをする。 体調管理に努めて授業への積極的な取り組みを期待します。
成績評価	課題、実技試験、定期試験により総合的に判断する。 単位認定者：久保田・森野

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版

参考図書 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みⅠ 保健生態学
その他

科目名 歯科保健指導論Ⅱ

講 師

久保田 千尋
溝部 潤子

歯科衛生士として歯科医院で働く。また歯科衛生士教員として、歯科衛生士（教育）認定（全国歯科衛生士教育協議会）を取得、主要3科目を教授してきた。臨床経験、教育現場経験を生かし講義を展開する。（久保田）
教育歴：歯科衛生士専門学校非常勤講師・大学（教授）／研究歴：学会活動・厚生労働省科学研究費など／最終学歴：大阪大学歯学部博士課程／臨床歴：大学病院・法人歯科医院（溝部）

学年・期 1年生後期、1単位、30時間（講義・演習）

講義目標 歯科保健指導を実施するために必要な、対象者（個人、集団、組織、地域）の情報について収集方法を習得する。具体的には、①歯・口腔状態の把握、口腔清掃や歯周疾患の指標を説明できる、②口腔清掃状態の観察と評価ができる、③口腔衛生に関する評価（指数）を理解し、実施できる

授業計画	内容
第1回	歯科保健行動支援のための基礎知識①行動変容（コミュニケーションスキル）
第2回	歯科保健行動支援のための基礎知識②行動変容（行動変容に関連する理論）
第3回	歯科保健行動支援のための基礎知識③行動変容（行動変容を促す理論の実践）
第4回	歯科保健行動支援のための基礎知識③行動変容（医療面接）
第5回	口腔清掃指数について① OHI OHI-S PCR PHPの評価方法を知る
第6回	口腔清掃指数について② OHI OHI-S PCR PHPの評価方法の計算方法を説明できる
第7回	口腔清掃指数について③ OHI OHI-S PCR PHPの評価方法の計算を行う
第8回	歯科衛生過程Ⅰ（歯科衛生過程の構成要素と内容）
第9回	歯科衛生過程Ⅰ（情報収集の方法と分類・分析）
第10回	歯科衛生過程Ⅰ（ニーズと歯科衛生士の行う計画立案）
第11回	歯科衛生過程Ⅰ（自分のデータでアセスメントする）
第12回	口腔清掃法・口腔清掃指数（術者磨き・PCR）相互実習①
第13回	
第14回	口腔清掃法・口腔清掃指数（術者磨き・PCR・フロス）相互実習②
第15回	

履修上の注意 授業後レポート及び課題の提出期日は厳守とする。授業資料はファイリングをする。
体調管理に努めて授業への積極的な取り組みを期待します。

成績評価 課題レポート、定期試験により総合的に判断する。 単位認定者：久保田

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版

参考図書 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みⅠ 保健生態学
その他

科目名 歯科診療補助論Ⅰ			
講 師	木村 こそえ	歯科衛生士として臨床に従事。歯科医院で働き、新人教育にも携わる。これまでの経験を活かし講義・演習を行う。	
	久保田 千尋	(木村)	
	松岡 研二	歯科衛生士として歯科医院で働く。また歯科衛生士教員として、歯科衛生士（教育）認定（全国歯科衛生士教育協議会）を取得、主要3科目を教授してきた。臨床経験、教育現場経験を生かし講義を展開する。	
		(久保田)	
学年・期 1年生前期、2単位、60時間（講義・演習）			
講義目標 歯科診療を安全かつ円滑に行うため、歯科診療チームの一員としての役割を学ぶ。歯科診療を行うにあたり、歯科衛生士として必要な基本的事項及び使用される器具、材料、薬品の名称、使用法を理解する。			
授業計画	内 容		
第1回	歯科診療補助とは（総論）		
第2回	医療安全について		
第3回	感染予防について（スタンダードプレコーション他）		
第4回	手指消毒法とは		
第5回	滅菌と消毒について・医療廃棄物について		
第6回	衛生材料の取り扱い（講義、演習）		
第7回	歯科材料の取り扱い① （印象材）		
第8回	歯科材料の取り扱い②-1 （アルジネート印象材・トレー盛り付け）		
第9回	歯科材料の取り扱い②-2 （アルジネート印象材・マネキンでの概形印象採得①）		
第10回	歯科材料の取り扱い③（模型材取り扱い）		
第11回	歯科材料の取り扱い②-3 （アルジネート印象材・マネキンでの概形印象採得②・石膏盛付け）		
第12回	歯科診療室の基礎知識について（チェアーの取り扱いについて①）		
第13回	歯科材料の取り扱い②-4 （概形印象採得/相互）		
第14回	歯科材料の取り扱い②-5 （スタディモデル作成）		
第15回	まとめ		
履修上の注意	レポート及び課題の提出期日は厳守とする。 体調管理を整え授業に取り組んでください。 実技技術を身に付けるため自主練習を重ねてください。積極的な取り組みを期待します。		
成績評価	課題レポート、実技試験、定期試験により総合的に判断する。 単位認定者：木村・久保田		
テキスト	医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ	歯科診療補助論 第2版 歯科材料 歯科機器	
参考図書 その他	1回…90分×2(180分)とする		

科目名 歯科診療補助論Ⅱ			
講 師	木村 こずえ 東 忍	歯科衛生士として臨床に従事。歯科医院で働き、新人教育にも携わる。これまでの経験を活かし講義・演習を行う。（木村） 歯科衛生士として歯科医院、訪問歯科にて働く。これまでの経験を活かし講義・演習を行う。（東）	
学年・期 1年生後期、2単位、60時間（講義・演習）			
講義目標	歯科診療を行うにあたり、歯科衛生士として必要な基本的事項及び使用される器具、材料、薬品の名称、使用法を理解する。それにより歯科医師と共同して円滑な歯科診療が行えるようになることを目指す。第一学年では患者がどうすれば安心して快適に診療を受けられるかを考え、診療の介助ができることを目標にする。		
授業計画	内 容		
第1回	歯科診療室の基礎知識について（チェアーの取り扱いについて②）		
第2回	共同作業① （概念）		
第3回	共同作業② （バキュームテクニック）		
第4回	共同作業③ （フォーハンドデンティストリー他）		
第5回	歯科材料の取り扱い②-6（アルジネート・寒天連合印象採得①）		
第6回	歯科材料の取り扱い②-7（アルジネート・寒天連合印象採得②）		
第7回	歯科材料の取り扱い復習（ゴム質印象材）		
第8回	歯科材料の取り扱い復習（石膏の種類）		
第9回	共同動作④（ラバーダム防湿）		
第10回	歯科材料の取り扱い④－ 1 （合着材①）		
第11回	歯科材料の取り扱い④－ 2 （合着材②）		
第12回	歯科材料の取り扱い⑤（仮封材）		
第13回	歯科材料の取り扱い⑥（まとめ）		
第14回	医療療安全管理・感染事故の対応		
第15回	まとめ		
履修上の注意	レポート及び課題の提出期日は厳守とする。体調管理を整え授業に取り組んでください。 実技技術をに身につけるため自主練習を重ねてください。積極的な取り組みを期待します。		
成績評価	課題レポート、実技試験、定期試験により総合的に判断する。 単位認定者：木村・東		
テキスト	医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科材料 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科機器		
参考図書 その他	1回…90分×2(180分)とする		

科目名 College Hour（総合学習）Ⅰ	
講 師	木村こずえ 外部講師
学年・期 Ⅰ年生通年、Ⅰ単位、30時間（講義・演習）	
講義目標	歯科衛生士としての総合的な学力を育成することを目的とする。各テーマに添って授業を展開し学習目標の到達を目指す。社会人としての素養の育成としても構成している。
授業計画	内容
第1回	う蝕について
第2回	フッ化物歯磨剤の成分、う蝕予防歯磨剤について（企業）
第3回	電動歯ブラシについて（企業）
第4回	
第5回	カラーコーディネイト・メイクⅠ（パーソナルカラー入門）
第6回	カラーコーディネイト・メイクⅡ（パーソナルカラー診断）
第7回	カラーコーディネイト・メイクⅢ （パーソナルカラーを活かした歯科衛生士としての身だしなみ）
第8回	感染管理について①（デュールデンタルジャパン株式会社）
第9回	
第10回	感染管理について②（デュールデンタルジャパン株式会社）
第11回	
第12回	校外学習（デュールデンタルジャパン株式会社）
第13回	校外学習（デュールデンタルジャパン株式会社）
第14回	知覚過敏について デンチャーケアについて （企業）
第15回	審美歯科
履修上の注意	
成績評価	レポート提出、また意欲や態度を評価し単位認定をおこなう。
テキスト	
参考図書 その他	オムニバスで行われる授業であるため、その都度配布資料等あり。